

青丘文庫研究会月報

No.274
2014年7月1日

青丘文庫研究会 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内
TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp
 ①在日朝鮮人運動史研究会関西部会 (代表・飛田雄一)
 ②朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)
 郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料3000円
 ※ 他に、青丘文庫に寄付する図書の購入費として2000円/年をお願いします。

<巻頭エッセイ> 中野重治と朝鮮飴売り 砂上昌一

1920年代から40年代にかけて日本内地では朝鮮飴売りを生業とするものが多かった。しかし、この朝鮮飴売りも戦後になるとあまり話題に上らなくなり町から姿を消していった。それは砂糖販売が統制されるたり軍需工場などに動員される朝鮮人が多くなり朝鮮飴売りどころではなくなったこともその要因としてあげられる。

それでも、敗戦間もなくまだ金沢市内の駅周辺で女性の朝鮮飴売りがいたことを記憶している人もいる。その姿は白い朝鮮服を着て朝鮮靴をはき頭には円形の器を乗せて手には飴を切る鋏をもっていた姿を記憶しているという。

朝鮮飴売りは朝鮮人人口が多かった九州や関西地方だけでなく多くの県でその存在が確認されている。そして彼らの飴売りの姿は当時の作家の眼にとまっていた。

福井県出身の作家中野重治は金沢市内や東京での朝鮮飴売りの姿を描いている。

中野重治は詩「大道の人びと」の中で朝鮮飴売りの姿を次のように描いている。

「どこからともなく彼らはやって来た/数知れず
にやって来た/砥石/安全カミソリ/キンの指輪/おつ
とせい 蘇鉄の実/夜は夜で朝鮮飴/それからくじび

き/彼らは一様にくろい顔をしていた/キンの入れ歯をしていた/あるものは暑いさなかみよごれた袷を着ていた/あるものは木枯らしのなかに麻裏草履で立っていた。」

ここに出てくる朝鮮飴売りの姿は他の大道で商いをしている人々と同じようにその厳しい現実が垣間見える。

この詩は中野重治が金沢の四高の学生であったときに発表したものであった。この時、冬の寒い祭礼の境内でくじ付きの朝鮮飴売りを売っていた朝鮮人のうらぶれた姿は中野重治の心に深く刻まれ次第に朝鮮人に対する思いを強くしていったと思われる。彼の朝鮮人に対する共感は詩『朝鮮の娘たち』や『雨の降る品川駅』へと続く。

1928年の地元紙『北国新聞』には朝鮮飴売りに関する記事が次のように載っている。

見出しただけを抜き出してみる。「鮮人飴売り/轢死を遂ぐ/糸魚川青海間 (昭和3・4・31付) 「甘言をもつて/娘を連れ出す/鮮人飴売り」 (昭和3年5・9付) 「鮮人合宿所で/鮮人飴売り/4名検挙さる」 (昭和3・9・17付)

この28年にはおよそ千人の朝鮮人が県内居住し

金沢市内だけで 170 人くらいが居住していたと地元新聞は報じている。また、36 年には朝鮮飴売りが無届でくじ付きの飴を売っていたため営業停止になっている。このとき警察署に 20 数名の朝鮮飴売りが抗議している。(昭和 11 年 7・16 付) この記事からは当時、金沢市内の朝鮮飴売りはすでに 20 数名いたことがわかる。そしてこのころからくじ付きの朝鮮飴売りの取り締まりが厳しくなり新聞でも注意を喚起するようになった。このような取り締まりは金沢市内だけでなく富山や福井市内でも同様に取り締まりが厳しかったことが地元新聞などからもわかる。

また、中野重治の自伝的小説『むらぎも』の中にも朝鮮飴売りの描写がある。中野が第四高等学校から東京帝国大学に入学したおよそ 1 年間が描かれている。主人公片口安吉が研究会を終えての帰り道朝鮮飴売りがくじを売っている場面が次の箇所である。

町の方々の辻で、埃の吹いてくるような場所で朝鮮飴売りがくじ引きをやっている。安吉は何べんも立ちどまってみたことがある。腰かけた男が左手に握った十本ばかりのこよりのあいだへ、右手に一本だけつまんだこよりを「いいですか。いいですか。これですよ、檀那さん。ほら…入れますよ。これを、ここへこう入れる…」といってひよいと入れる。安吉はまばたきをやめて追っている。入れられた一本一本が、十本のあいだで、あるのろい速度でその位置をさがす。と位置がきまる。十一本の束が静止する。「さあ…」といってそれを男がさしだす。もうわからない。まったくわからない。どれもこれも同じに見えて、どれが後からさしこまれた一本か、思案しても思案しても安吉には見当がつかなかつた。

ここでは朝鮮飴売りのくじ引きの様子がよくわかる。安吉はこのくじ引きの様子を見ながら研究会でのやり取りを思い浮かべながら頭を悩ましてい

る。

中野重治の父は彼が少年期まで朝鮮おり朝鮮に対する関心はあった。中野は 19 歳の時四高の「北辰会雑誌九十一号」に「国旗」という短編小説を書いている。夫と朝鮮に渡ったお房という女性の眼で当時の朝鮮を次のように語らせる。「朝鮮人がかわいそうでもあり、またわけもわからず日本人浅ましく思われた」(中野重治の肖像・林尚男)

このほか朝鮮飴売りの姿を描いている小説に深沢七郎の『甲州子守唄』がある。甲府笛吹川の流域のはずれに住む主人公徳次郎の近くに住む朝鮮飴売りが越してきた。関東大震災の後のことであった。徳次郎の母親の小さなもの売りの店の近くに朝鮮人が越してきた。その朝鮮人の様子は次のように描かれている。

土手下の村のはずれの無住のお寺の庫裡に朝鮮人が越して来て朝鮮飴を売り歩くからである。その朝鮮人は細い木の屋台を担いで朝鮮飴は鉋の刃を金槌で叩き割って売るのだった。1 錢ずつ売るのだが、みんな売れば 3 円になるそうである

これらの作品から中野重治がどのようなまなざしで朝鮮人を見ていたかがよくわかる。1930 年代における金沢市内の朝鮮飴売りは好奇の目で見られていても中野のように朝鮮人の存在を内在的にとらえられることはなかった。韓国京城の朝鮮総督府に一時期勤め土地調査事業の仕事についていた父親から朝鮮のことを聞くようになった中野は朝鮮を単なる植民地朝鮮を地理な関心からそこに住む人々へと認識を変えていったのではないだろうか。朝鮮飴売りへのまなざしはそのことを表しているように思う。

第347回在日朝鮮人運動史研究会関西部会（2014年3月9日）

「「在日の精神史」を考える」 尹健次

私はいま、「在日の精神史」と題する一冊の本を書きたいと思っている。在日朝鮮人が生きてきた歴史、思想、精神の体系的叙述をめざすものであるが、できれば論文といった固いものではなく、「物語」として書ければと願っている。

今回の例会ではこうした私の考え方、構想の概略について述べ、皆さんからご意見をいただこうと思った。

例会で述べたことについて簡略に記しておくと、つぎのようなことである。

なぜ「在日の精神史」か。

「在日」の「物語」

「私」を主語にして書いていく。

在日朝鮮人二世によるひとつの記録。

人生の結末をどうつけるのか、歴史に対する責任。

在日朝鮮人の生きた歴史、思想、精神の体系的叙述。

幅広い「民族統一戦線体」としての同胞団体はなぜ形成できなかつたのか。

在日の歴史、思想、精神史を書くことは諸先輩の「鎮魂」と「再生」の意味をもつ。

「在日朝鮮人」の主体性とは、「自己回復」あるいは「自己確立」とは。

こうした説明をおこなうなかで、これまでで書いた論文について、その要点などを説明した。

「渡日・解放・帰還」

「脱植民地化の課題と「左翼」ナショナリズム—金斗鎔の場合」

「在日朝鮮人運動と日本共産党—階級か、民族か」

「朝鮮人管理と密航、外国人登録制度」

「民戦から朝鮮総連へ—路線転換の歩み」

またいま書いている論稿について説明した。

「在日朝鮮人の文学—植民地時代と解放後、民族をめぐる葛藤」

「金達寿論—神奈川近代文学館・金達寿文庫の開設まで」

なお、今後書くと思われる論稿の題材について説明した。

「民族教育」

「帰国事業」

「在日朝鮮人の日本人妻」

「総連と民団」

「在日朝鮮人2世、3世のアイデンティティ追求」

「在日朝鮮人文学の展開」

「対南工作と在日政治犯」

「在日女性と文学」

「冷戦構造の終焉、日本社会の変化と在日朝鮮人の多様化」

「在日の未来をどう考えるか」

....

ここに述べた各論稿を骨子にして、それを再構成しながら本にまとめていきたいが、その際、日本近代史と朝鮮近代史の基本的特徴についてきちんと把握しておくことが重要だと思う。私なりにその基本的特徴について整理して言うなら、つぎのとおりである。

日本と朝鮮の近代史は表裏の関係

日本近代史の特質—西洋列強の日本侵出、天皇制国家の創出、アジア侵略

朝鮮近代史の特質—反帝反封建の闘い・植民地近代化の強要・南北分断

日本の国民教育の3本柱—西洋崇拜・天皇制イデオロギー・アジア蔑視

上記6つを合わせた上で、在日のアイデンティティ探求と歴史的課題

〈ご案内〉

- 朝鮮史セミナー『北方部隊の朝鮮人兵士～日本軍に動員された植民地の若者たち』(同名の本は、現代企画室、2014.3、3024円) 講師：北原道子さん(歴史研究家、在日朝鮮人運動史研究会会員)／日時：2014年11月14日(金)18:30／会場：神戸学生青年センター
- 出版部新刊『殺生の文明からサリムの文明へ～ハンサリム宣言／ハンサリム宣言再読～』モシムとサリム研究所著、大西秀尚訳(A5版、164頁、756円、送料164円)／購入希望者は、送料とも920円を<01160-6-1083 公益財団法人神戸学生青年センター>にご送金ください。
- 『第9回移住連全国フォーラム・神戸2013(甲南大学)・報告集』1冊1000円、送料164円、208頁、A4版。購入希望者は、<郵便振替00980-4-282566 「2013神戸フォーラム」>で、送料とも1164円をご送金ください。
- 『第6回 在日朝鮮人運動史研究会日・韓合同研究会<報告集>』一部1000円、送料82円。購入希望の方は、郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫研究会>で1082円をお送りください。
- 第7回強制動員真相究明全国研究集会 2014.3.15～16(京都)「強制動員問題解決への道」&京都フィールドワーク※資料集、A4版、132頁。800円+送料82円=882円。購入希望者は、郵便振替<00930-9-297182 真相究明ネット>に送金ください。
- 金慶海さんの遺作『流浪の両班・朴泳孝』(仮題)は出版にはいたりませんでしたが、ご希望がありましたので、ほぼ完成の原稿を冊子にしました。B5、262頁、2分冊になっています。ご希望の方は<00970-0-68837 青丘文庫月報>に1000円+送料164円=1164円をお送りください。

●青丘文庫研究会のご案内●

■第351回在日朝鮮人運動史研究会関西部会

2014年7月13日(日)午後3～5時 「在日コリアンの祭祀」 李裕淑

■第294回朝鮮近現代史研究会

2014年7月13日(日)午後1～3時 「日本統治下の朝鮮・台湾の国策紙芝居」 鈴木常勝

※会場 青丘文庫(神戸市立中央図書館内、TEL 078-371-3351)

※月報5月号、6月号はメールニュースとしました。以下、研究会の記録です。

- 第293回朝鮮近現代史研究会／2014年5月11日(日)午後1～3時／「韓国初インスタントラーメン誕生秘話—明星食品と三養食品の交流—」村山俊夫
- 第349回在日朝鮮人運動史研究会関西部会／2014年5月11日(日)午後3～5時／「在朝日本人引揚の地域別展開：群山の場合」崔永鎬
- 第350回在日朝鮮人運動史研究会関西部会／2014年6月8日(日)午後3～5時／「大阪の1930年代以降の在日朝鮮人教育」塚崎昌之

【今後の研究会の予定】9月以降の予定です。8月はお休みです、9月14日(日)在日(全ウンフィ)、近現代史(金早雪)。10月12日(日)在日(藤川正夫)、近現代史(未定)。研究会は毎月第2日曜日です。報告希望者は、飛田または水野までご連絡ください。

【月報の巻頭エッセイの予定】9月号以降は、三宅美千子(原稿受け取り済)、佐野通夫、吉川絢子、安致源、伊地知紀子、太田修、高正子、坂本悠一、全淑美、足立龍枝、渡辺さえ、池貞姫、張允植、横山篤夫、松田利彦、西村寿美子、玄善允、川口祥子。よろしくお願いします。締め切りは前月の10日です。